

一般質問

わたなべ なおき
渡邊 直樹 議員

○津別病院改築に向けた協議経過と今後の見通しについて



昭和 26 年建設の津別病院

議員

特別養護老人ホームと
一体化で建て替えるは可能か

町長

できない考えが示されている

議員

津別病院は、一般診療、救急医療をはじめ、時間外診療、在宅医療、各種住民健診、乳幼児健診、特養の委託医など、重要な役割を果たしている。町は病院維持のため「地域医療維持補助金」に加え、令和2年度から「病院施設整備基金」を設置している。

本町での、医療サービス充実・維持は今後も必要であることから、病院改築に向けた

協議経過と今後の見通しについて伺いたい。

令和4年5月、町から丸玉木材株式会社津別病院へ、改築に向けての要望書を提出しているが、それに対する回答や受け止めについては。

町長

現時点で、正式な回答はいただいていませんが、町の医療・介護福祉環境等を総合的に考え、慎重に検討されているものと推測しています。

議員

令和5年度での協議経過と今後の予定については。

町長

5月連休明けに、社長と私を交えた会談を実施しました。正式回答には至りませんが、担当者間で協議を積み上げ議論を進める確認をしたところですので。その後、担当

者間において、検討課題としていた今後の病院経営や見通しを、専門的な見地も含めて検討材料とする点について、重ねてお願いしたところです。現在も引き続き、病院・会社での内部検討が継続中で、町と協議・検討できる状況までに至っていない旨の回答をいただいています。

議員

津別病院改築を進めるうえでの課題や見通しについては。

町長

改築に向けては、規模、機能、設備等をどのように考え施設整備していくか、慎重に検討していくことが求められます。その根幹である規模・機能については、病院・会社の考えがなくては町も一緒に協議・検討は行えません。できるだけ早期に具体的な検討を進めたい思いは、会社とも共有している考えです。現時点で見通しはたっていないません。

議員

病院の老朽化は、具体的にどの程度進んでいるのか。

保健福祉課長

躯体については、しっかりしたのですが、建物、壁の中の配管を含めた設備面や、機器面の老朽化が進んでいると伺っています。

議員

特別養護老人ホームと一体化での建替えは可能であるか。

町長

5月の面談の際、できない旨の考えが示されています。

議員

町は特養の建て替えについて、病院改築との兼ね合いもあるとしていたが、特養建て替えへの影響については。

町長

特養も病院と同じ課題として、規模をどの程度にするのか、介護人材確保等の問題もあります。

また、建設への財源について、多くを過疎債で予定するため、令和8年以降となる考えです。

そこに向けてお互いの課題をつけ合わせながら、進めたいと考えています。



議員

特別養護老人ホーム改築は
第9期計画に盛り込むのか

町長

計画最終年の令和8年建設と見込む

議員

介護保険給付の円滑な実施のため、3年を1期とする介護保険事業計画は、令和6年度から第9期計画を迎える。

この計画では、地域の実情に応じて介護サービス基盤を整備すると共に、地域包括支援システムの深化・推進などの計画を定めることになる。

そこで、第9期計画には、老朽化している特別養護老人ホームの改築を盛り込むのか。



改築が予定されている特別養護老人ホーム
いちいの園

町長

担当課において恵和福祉会との協議がすでに始まっており、所管の委員会には課題の整理を行ってから協議を行う予定です。恵和福祉会としては改築をしたいという事です。町としては町有地の提供と金銭的な支援を考えています。

議員

建設する年など现阶段で答えられるものは。

町長

建設は財政状況を鑑み、最短期で第9期計画最終年の令和8年度になるかと考え、協議することになります。

建設場所は、旧消防庁舎の跡や達美のケアハウス隣接地の町有地を提供できると話しているの、今後、ベッド数を何床にするのかも含め協議を進めていきます。

議員

介護事業所にとって課題である
介護人材の確保は

町長

外国人育成支援事業の継続と合わせ
外国人と町民との交流も進めたい

議員

第9期計画では、介護人材の確保を重要課題の一つとして位置付けるべきではないか。

町長

現在、津別町で進めている人材確保対策として、外国人介護福祉人材育成支援事業や介護保険施設従事者就業支援事業に加え、コロナ禍で未実施となっていた福祉体験セミナーのPR内容や方向性を実行委員会で再検討し、人材確保に向けた支援について継続していく考えです。

議員

町内の介護サービス事業所に話を聞くと、介護人材確保は、事業所にとって大きな課題になっている。「利用者が重度化する一方で、介護職員の高齢化で職員負担が重くなっている」、「特定技能で働く外国人には支援登録機関へ

町長

の支払いなど経費も大きい」など、人材確保にはどの事業所も苦慮していて、外国人に頼らざるを得ない現状の中、支援を求める声もある。合わせて、外国人の方と地域の人たちの交流を進め、津別町の良さを感じながら働き続けられる環境づくりに配慮してほしい。

介護に限らず農業分野も含めると外国人の方が増えてきている現状です。町としては介護人材育成支援協議会との連携も含め、やれることは行っていますが、引き続き事業所と連携し進めていきます。外国人の方たちとの交流の場が少ないということもありますので、町のイベントへの参加などを通しながら、町民との交流が図られるよう、実行委員会の中で検討していただきたいと思います。



さとう ひさや
佐藤 久哉 議員

- 津別町まち・ひと・しごとについて
- 林業・林産業のブランド化について



一般質問

議員

人口減少緩和に有効な施策は

町長 移住者の受け入れがキーワード

議員

町は平成27年10月に、先に策定した「津別町人口ビジョン」を踏まえて「津別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。この総合戦略は、人口減少対策であるとともに、人口が減っても心豊かで安心して暮らせる地域社会の形成に向けた戦略と理解しているが、人口減少率の緩和にどのような施策が有効と考えているのか。

町長

人口減少に少しでも歯止めをかける施策として、移住者の受け入れが一つのキーワードになります。そのために移住者の就労の場や機会の創出、いつまでも住み続けたいと思える住みやすい町づくりが不可欠であり、そのことは町民にとっても必要な施策です。そのため、行政として一つ一つ課題解決を図りながら、新たな施策の検討も視野に進

めていく考えです。

議員

コロナ禍により「総合戦略」の目標値と達成値に大きな齟齬が出た事業はあるのか。

町長

コロナ禍の影響により、施策事業自体が実施できなかったものとしては、「男女の出会いの場の創出」「小中高生の町外・海外研修の参加者維持」があります。

前者については、今後ニーズの確認、掘り起こしの作業を進めながら、求められる事業のあり方を検討し、適宜進めていきます。後者については、国内の移動規制、海外への渡航規制がなくなり、順次、元通りの事業を展開していくこととしています。

議員

人口減少によって起こる持続可能なまちづくりへの悪影

響や問題点をどのように想定しているのか。

町長

このことは既に顕在化しており、その一つに人材不足、労働力不足があげられます。これは単に求人を行っても人員確保はできないという問題に止まらず、事業所の継続や一次産業の存続問題につながっていきます。

議員 木材や木製品利用促進の情報発信は

町長 動画配信やノベルティ配布を

議員

木材や木製品利用促進の情報発信の必要性はないのか、あるとすればどのように考えているか伺いたい。

町長

第6次総合計画の「林業・林産業のブランディングとプロモーションの推進」において、「津別町が実践してきた優れた林業・林産業の強み、魅力・資源についてブランド構築を行い、パンフレットや

WEBサイト、映像コンテンツを用いたプロモーションを実施する」としています。

これについて、道東テレビ制作による各種森林や林業をテーマとするPR動画の制作や、「タウンニュースつべつ」で同じく森林や林業を取り扱う動画を配信しています。

また、森林環境譲与税活用事業において、木材利用と普及啓発を図ることを目的に、本年、町のPRデザインをレーザーにより刻印した相富木材加工株式会社製の白樺を原料とした木製スプーンを1万本製造し、町内の飲食店や菓子等の小売店、宿泊施設など28カ所に8500本ほどを配布しました。今後については、例えば「木のまちつべつ」をPRするQRコードつき木製ノベルティを首都圏でのクマヤキ販売時などで無料配布することも検討したいと考えています。



白樺の木製スプーン

※ノベルティとは、自己宣伝・商品宣伝のため団体・個人が無料配布する記念品。



一般質問



議員

クーリングシエルトアの
設置場所を増やす考えは

町長

予算編成の中で検討について

議員

津別の今年の夏は、暑さが
厳しく、まさに命の危険が伴
う日々が続いた。

そこで次の点について伺
いたい。

①津別町での、クーリング
シエルトア（冷房設備があり
暑さから逃れる施設）利用の
呼びかけは、いつから、どの
施設を対象に行われたのか。

②来年以降、熱中症対策と
して、早い段階からクーリン
グシエルトアを実施してはど
うかと考えるが、町の見解は
どうか。

③小中学校での、児童生徒
への暑さに対する指導はどの
ようなものか。

④暑さによる休校の基準
（マニュアル）はあるのか。

町長

①津別町は、しっかりとし
たクーリングシエルトア事業
は行っていませんでしたが、
例年がない猛暑が続いたこと

議員

暑さにより、町民に被害は
出たのか。

町長

緊急搬送の中で、熱中症と
診断された方が6人、脱水症
の方が9人出ました。

議員

クーリングシエルトアの設
置場所を増やす考えはないか。

町長

本岐、活汲、相生等でエア
コンを持っていない方や、サ
ロン等の催し物の暑さ対策の
ために、予算編成の中で検討
していきたいと考えています。

議員

広報の仕方を、町はどう考
えているのか。

町長

来年に向け、ホームページ、
SNS、広報車を活用します。
また、広報誌を活用すること
が一番大事かと思えます。

議員

来年は、各課の連携を密に
して、事業を進めてほしい。

町長

役場内に、政策調整会議が
設けられていますので、そこ
で調整しながら、来年に向
かって進んでいきたいと思
います。

議員

学校において、体育授業は
どうしたのか。

教育長

小学校はプールの授業を中
心にしています。中学校は、
特別に暑くない限りは体育館
で行い、暑い場合には、保健
体育の時間とし、教室内の勉
強に切り替えました。

議員

クーリングシエルトアを
行ったことで、図書館の利
用者に変化はあったのか。

教育長

オープン当初は中高生が多
く、そこから徐々に高齢者の
方にも浸透して、暑くなって
からは、利用者が増えてきて
いるように感じます。



高騰が懸念される灯油価格

議員

燃料価格の高騰から
2万円に引き上げを

町長

北見地域定住自立圏内での
今後の状況を見たい

議員

W H O（世界保健機関）は冬の室温を18℃以上に保つよう勧告しているが、北海道民医連の調査では、25%が室温18℃以下で生活し、86%が暖房の節約をしていると答えている。また、北海道経済産業局によれば、6月の灯油の店頭小売価格は113円で、2021年と比較すると20円も値上げしている。この状況が続くと本年も助成事業が実施

になると考えられる。そこで、次の点について伺いたい。

- ① 昨年の福祉灯油の助成計画件数と申込実績について。
- ② 本年の助成対象世帯の見込件数は何件か。
- ③ 燃料価格の高騰から本年度の実施の考えはどうか。また、従前までの助成額、一世帯当たり1万円を2万円に引き上げられないか。

町長

- ① 助成計画件数は730世帯、申し込み件数は385世帯で、このうち認定件数は374世帯となっています。
- ② 基準日が11月1日のため、現時点で正確な件数は把握できませんが、昨年の730世帯に近いものと想定しています。
- ③ 本年度の福祉灯油等購入助成事業の実施にあたり、灯油単価の基準日を11月1日とし、1ℓ90円を超えた場合と

しています。その時点で、状況を踏まえ判断したいと考えています。

助成額については、令和3年12月定例会での一般質問の回答と変わりませんが、北見地域定住自立圏内（北見、美幌、津別、訓子府、置戸）での情報交換も参考に決めています。

なお、現段階では、各市町とも未検討と聞いています。

また、本町では11月にお買い物割引券を配布するため、今議会ですべて1人3千円分の補正予算を計上していますので、このことについても判断する上で加味したいと考えています。

議員

- ① について、計画件数730件に対し、認定件数が374件、51・2%の実績率になっている。この比率を高めるために旭川市では、支給対象世帯となる可能性のある世帯に、文書通知を行っているが、この方法にすることができないのか伺いたい。

保健福祉課長

担当する保健福祉課では、

70歳以上の独居世帯や障がい者世帯などは把握できませんが、対象となる条件である非課税世帯の税情報は、本人の同意がないと確認できません。課税世帯を含めた全員に通知書を送付すると混乱を招く恐れがあり、広報やチラシ等で周知し、申請時に本人から税情報の同意を得て確認しています。

議員

- ③ 燃料価格の高騰からみて、現行の1万円を2万円に引き上げられないか再度伺いたい。

9月11日時点で、津別町内の1ℓ当たりの灯油単価が、昨年度の単価115円から13円高くなっている。6カ月間で1000ℓ消費すると、1万3千円の負担増になり、そこも十分踏まえて、今後、助成額を決定していただきたい。

町長

先ほど答弁したとおり、今後の状況を見ながら決めさせていただきます。



一般質問

議員

「こども家庭庁」設置に伴う進捗状況は

町長 政策や制度についての通知が
徐々に届き始めている

議員

2023年4月「こども家庭庁」が発足しました。

「こども家庭庁」は、子どもに関する取り組みや、政策を社会の真ん中に据え、子どもの視点で子どもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、子どもの権利を保障し、誰ひとり取り残さない子どもたちの健やかな成長を社会全体で取り組むことを目的とされた機関です。

そこで、次の点について伺います。

①「こども家庭庁」設置に伴う今後の町の子ども・子育ての施策について。

②子ども・子育て支援の拡充と体制強化について。

③子どもの視点、子育て当事者の視点で大切なことは、積極的な対話や連携、協働が必要と考えるが、どうか。

④現在と今後の具体的な取り組みについて。

町長

①これまで、さまざまな省庁に分かれていた子どもに関する業務を一元化し、現在、これに伴う政策や制度についての通知が徐々に届き始めているところです。

今後、全体像が示されてから十分検討を行い、新規に実施する必要があるものの整理を行い、子育て施策に関する方針を定めていく考えです。

②早急に実施しなければならぬものや、努力義務であるものなどを整理し、事業実施に人員の確保が必要であれば検討する考えです。

③「こども基本法」の基本理念の一つに「自己に直接関係するすべての事項に関して意見を表明する機会、多様な社会的活動に参画する機会が確保されること」とあり、子どもの意見を聴く機会を設けることが求められています。このため、令和6年度に策

定する「第3期津別町子ども・子育て支援事業計画」において、小中学生を対象に意見を聴く場を設けることも検討したいと考えています。

④関係機関と連携し、支援会議を開催して虐待対応と防止を中心に取り組んでおり、専門員の意見を聴きながら対応しているところです。

現在の取り組みを継続するとともに、「こども未来戦略」として出産一時金など、すでに前倒しして制度化されたものもあり、今後「こども家庭庁」から出される通知を基に、新たな取り組みも含め、取り組んでいきます。



子育て支援センターの様子 (R3.4.7 撮影)

議員

子どもたちの意見を聴く場、あるいは当事者の意見を聴く場をどの程度されているのですか。

町長

直近では、大通棟の愛称募集や第6次総合計画でのアンケート実施などがあります。

また、子育て支援センターを利用しているお母さんたちとは、毎年話し合いを持っており、木材工芸館キノスの開館時間を変更するなどを行ってきました。これからも、改善できるものはしていこうと思っております。

議員

イベント的に子ども議会等が開催されているところがありますが、どう考えますか。

町長

津別町でも過去に子ども議会という形で行ったことはありました。子ども議会という改まった形がいいのか、対面方式で一緒に話し合う場所を設けたほうがいいのか、学校とも協議をしながら、検討したいと思えます。